

第Ⅱ部 民間開発に伴う調査の成果

第1章 鶴ヶ岡外遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡外遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高 27 ～ 50m の台地北縁、低地との比高差 4m あまりの緩斜面上に立地する南北 100m、東西 3.5km 以上の細長い崖線上にまたがる遺跡である。

周辺の遺跡は、江川下流に鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、西遺跡があり、八幡神社遺跡と西遺跡には縄文時代の集落が広がる。また、本遺跡の対岸でも旧石器時代の石器が表採されている。

2003 年 11 月、鶴ヶ岡遺跡の隣接地において事業所の建設に伴う事前協議があり、同年 12 月に試掘調査を行ったところ（第 1 地点）、旧石器時代（立川ロームⅣ層）の石器群と礫群を検出したため、2004 年 1 月 10 日包蔵地の変更増補をして鶴ヶ岡外遺跡として新規登録した。また、2005 年 1 月に第 2 地点を調査した際、崖線に沿って遺跡範囲確認の踏査を行った結果、さらに上流でも旧石器時代の石器を表面採取したため、同年 9 月に包蔵地の変更増補を行った。主たる時代は旧石器時代～縄文時代早・前・中期である。

II 鶴ヶ岡外遺跡第 7 地点の本調査に至る経過と概要

調査は土砂採取に伴うもので、原因者より 2021 年 3 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部、台地の平坦部で川越江川右岸縁辺部の標高 45.5 ～ 45.9 m に位置する。鶴ヶ岡外遺跡で最初に旧石器時代の調査がされた地点から南西に約 2,400 m に位置する。周辺地域は埼玉県ふるさと緑の景観地「ふじみ野市八丁ふるさと緑の景観地」にも指定されている。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 4 月 22 日～6 月 8 日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 5 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。表面精査後、各トレンチに 1 × 1 m の旧石器時代の試掘トレンチを 4 m 間隔に設定し調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 20 ～ 50 cm である。旧石器時代の確認はローム面より 20 ～ 40 cm の立川ローム層Ⅳ層まで掘り下げて行った。機材の撤収作業は 6 月 29 日～7 月 6 日に行った。試掘調査の結果、調査区北側の川越江川に傾斜する付近から旧石器時代の石器と礫群を確認した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は 2021 年 6 月 9 日～30 日まで行った。調査区の西側の境界杭をもとに 10 × 10 m 方眼の区画

第 41 表 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	鶴ヶ岡 5-177-3	(2003.12.19 ～ 2004.1.22) 2004.1.23 ～ 2.20	5,526	(212)	事業所	旧石器時代石器群、礫群、落とし穴		町内Ⅺ、大調 20
2	鶴ヶ岡 5-196、197 の一部	(2004.12.20 ～ 2005.2.2) 2005.3.14 ～ 6.24	5,000	(964)	老人介護施設	旧石器時代石器群、炉穴群、落とし穴		町内Ⅺ、大調 20
3	亀久保 1676-27	2005.10.25・26	160	(25)	鉄塔建設	遺構遺物なし		市内 2
4	鶴ヶ岡 1771-1 他	2003.12.10 ～ 24	5,911	(191)	給食センター	遺構遺物なし		町内Ⅺ
5	鶴ヶ岡 5-188-1 他	(2007.12.11 ～ 2008.1.30) 2008.2.20 ～ 3.7	43,449	(400)	共同住宅	旧石器時代石器群、石器		市内 5
6	鶴ヶ岡 5-195-1	(2013.4.23 ～ 5.31、 2013.7.31 ～ 8.7) 2013.11.1 ～ 22	4,099	165.5	老人介護施設	炉穴、集石土坑、土坑、木炭窯、土器等		市内 13
7	亀久保字大野原 1607-6	(2021.4.22 ～ 6.8) 2021.6.9 ～ 30	2,043	(688) 350	土砂採取	旧石器Ⅳ層石器ブロック、礫群、集石土坑、旧石器、礫等		市内 26
8	亀久保字大野原 1606-4	(2022.1.14 ～ 3.9) 2022.3.10 ～ 24	2,480	(406) 266	土砂採取	旧石器Ⅳ層石器ブロック、礫群、集石土坑、旧石器、礫等		市内 26



第60図 鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区 (1/10,000)

IV 鶴ヶ岡外遺跡第8地点

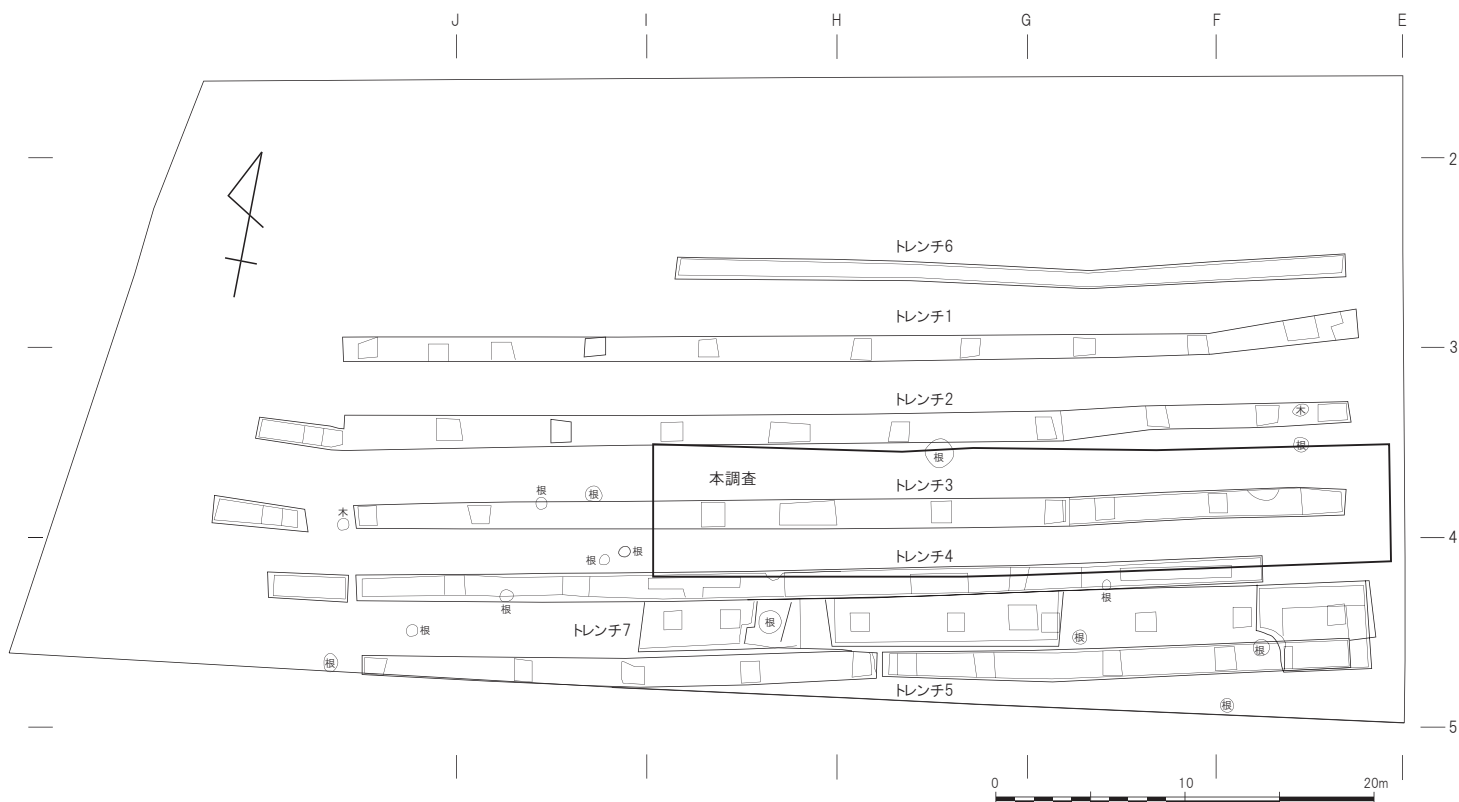
調査は土砂採取に伴うもので、原因者より2022年1月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は鶴ヶ岡外遺跡第7地点の西隣に位置し、開発行為も第7地点と同様であるため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年1月14日～3月9日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅約1.5～3mのトレンチ7本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。表面精査後、各トレンチに1×1mの旧石器時代の試掘トレンチを4m間隔に設定し調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～50cmである。旧石器時代の確認はローム面より20～40cmの立川ローム層IV層まで掘り下げて行った。試掘調査の結果、トレンチ1とトレンチ6以外で旧石器時代の遺構と遺物を確認した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は2022年3月10日～24日まで行った。調査区の設定は第7地点と同様である。10×10m方眼の区画を設定し北から南へ1、2、3～、東から西へA、B、C～の番号を付し、A1区、B1区～とした。さらに各区内を2×2m小区の方眼に分け北東隅より南に1～5、順次西側に6～10、11～15、16～20、21～25の番号を付し、一括遺物の取り上げに用いた。(第61図 小グリッド略図参照)。

本調査区の範囲は、E3区、E4区からH3区、H4区までの東西約40m、南北約7mの範囲である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。調査区の国家座標の測量を株式会社東京航業研究所に委託した。

V 遺構と遺物

確認された遺構と遺物は旧石器時代の石器ブロックと礫群である。旧石器時代の遺構と遺物は標高45～46.5mで斜面の落ち際、南北約13m、東西約40mの範囲に広がる。Iラインより西側では旧石器時代の遺構と遺物は確認されない。縄文時代の遺物は石鏃1点が出土し、遺構は確認されなかった。



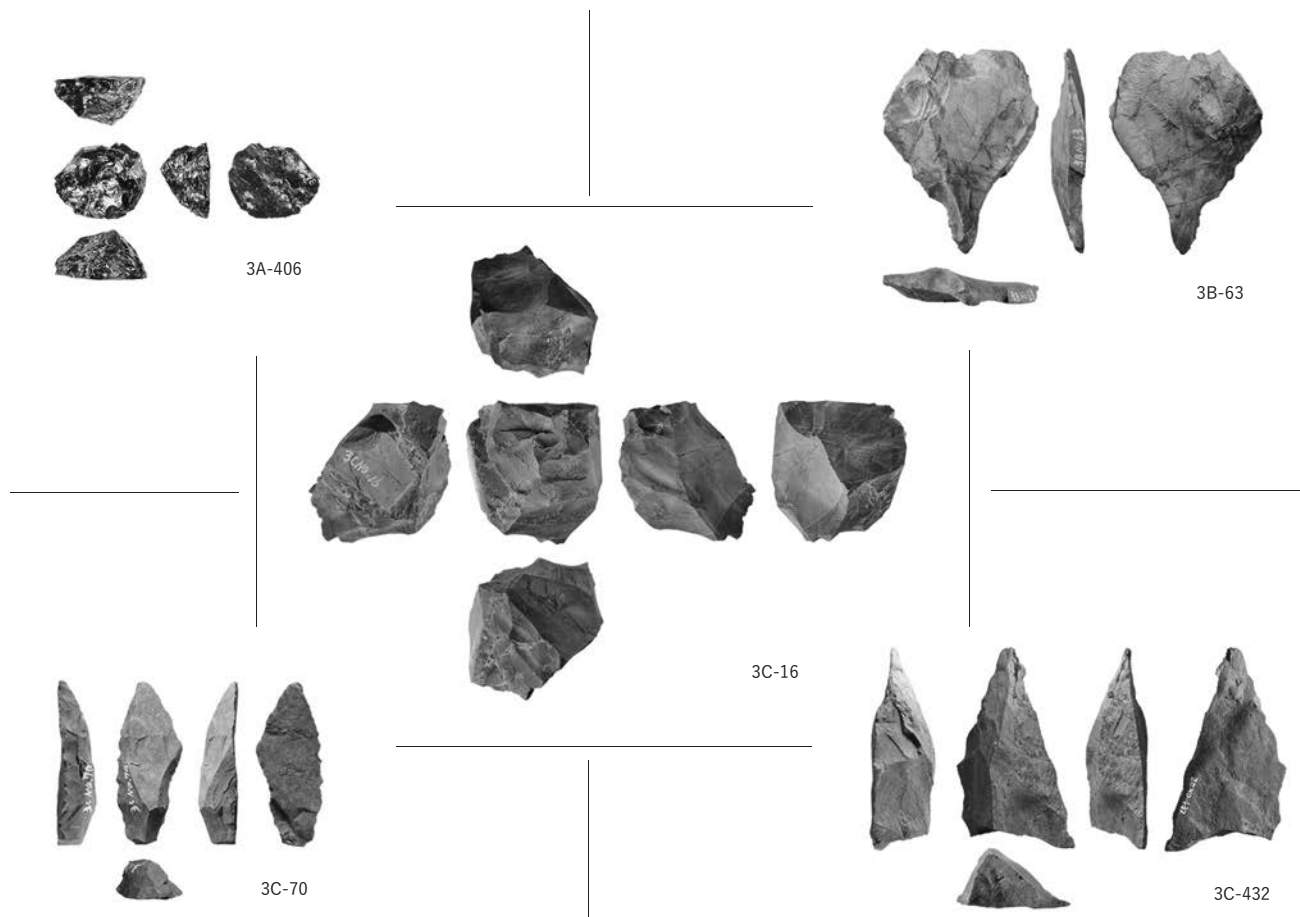
第65図 鶴ヶ岡外遺跡第8地点遺構配置図(1/400)

①旧石器時代の遺構と遺物

【礫群・石器ブロック】第8地点の調査区全体では約6～7カ所で礫群と石器ブロックの集中がみられる。E3区9・10・14・15小区、E4区中心部に2ヶ所礫群と石器ブロックの集中がみられる。E3区とE4区では特に黒曜石を多く含む傾向がみられる。F3区では1・2・6・7小区周辺に1ヶ所礫群と石器の集中が見られる。F4区23・24小区からG4区にかけて礫群と石器の集中がみられる。H3区5・10小区からH4区1・2小区と11・12・16・17・22小区的2ヶ所に礫群と石器の集中がみられる。出土遺物は製品と剥片を含め約59点、礫は約688点である。



第66図 鶴ヶ岡外遺跡第8地点遺物出土状況 (1/200)



鶴ヶ岡外遺跡第7地点出土石器



鶴ヶ岡外遺跡第8地点トレンチ2表土除去



鶴ヶ岡外遺跡第8地点 G4 区礫群



鶴ヶ岡外遺跡第8地点トレンチ1調査風景



鶴ヶ岡外遺跡第8地点トレンチ4調査風景